

教科用図書調査研究専門員会報告書

教科	国語科	種目	書写
----	-----	----	----

発行者略称	東書	教科書名	新編 新しい書写
-------	----	------	----------

所 見
<p>1 学習指導要領の教科の目標とのかかわりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中・高学年では、教材が「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「学習をふり返ろう」の構成の下、課題発見、他の文字への応用、学習の確認までのスムーズな展開を図っている。 ○毛筆教材は、いくつかの硬筆文字から導入し、原理・原則の一般化により、日常生活や学習活動に生かせるようにしている。 ○低学年の硬筆では、字形や筆順を、外形、数字、矢印で示している。中・高学年の毛筆では、穂先の動きや点画のつながりを写真で示している。 ○古文、百人一首のなぞり書き、身の回りの石碑の文字などを、学年に応じて取り上げ、伝統的な言語文化との関連を図っている。 <p>2 内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年で基本点画の説明がマークで示され、毛筆練習では点画のつながりを考えられる手本を用意している。 ○学年に応じて、姿勢や筆記具の持ち方等の基礎的な内容が確認できるよう、写真で大きく示されている。 ○中・高学年では、「漢字表」から漢字をさがして書く問題もあり、活用力の育成にも配慮している。 ○学習の振り返りとして、低学年ではシールを貼り、中学年以上では評価欄に記入するなど、自己評価できるようにしている。 ○「生活に広げよう」では、手紙やノートの書き方、新聞の書き方が具体的に示され、書写の能力を他教科や日常生活に生かせるようになっている。 ○硬筆と毛筆との関連を図り、「広げよう」では、毛筆教材のほとんどに応用・確認できる硬筆教材が用意されている。 <p>3 資料について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○姿勢や筆記具の持ち方や扱い方が、写真、挿絵、言葉で最初のページに示され、低学年では、実物大で手の位置や合い言葉を示している。 ○「付録」があり、そこには「書いて味わおう」という伝統的な言語文化に触れる教材や用具の作り方など、様々な資料を示している。 <p>4 表記・表現について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目次やタイトルの下に、その時間に学習するポイントを示している。また、キャラクターが書写学習の道案内をしており、吹き出しでそのポイントを説明している。 ○毛筆の点画を書くポイントを、「トン」「スー」「ピタッ」などで表現している。また、穂先の動きがわかるように2色(朱・薄墨)を使っている。 ○穂先の向きを「折り紙半分」と示したり、筆圧を「動物のイラスト」で示したりしている。 <p>5 全体的な特徴、その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学年以上には、「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「生活に広げよう」の各段階の学習の手引きが設けられ、主体的な学習の展開を意図している。 ○毛筆教材の左側にはインデックスがあり、既習事項を繰り返し意識させることができるようになっている。 ○硬筆の書き込みも多く、練習帳の機能も持っている。 ○6学年には、中学校で学習する行書を示し、書写に対する関心を高めている。

教科用図書調査研究専門員会報告書

教科	国語科	種目	書写
----	-----	----	----

発行者略称	学図	教科書名	みんなと学ぶ 小学校書写
-------	----	------	--------------

所	見
1	<p>学習指導要領の教科の目標とのかかわりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の学習において目指すこと等が裏表紙に具体的に示されている。 ○低学年では、「姿勢」「筆記具の持ち方」を巻頭見開きで示している。高学年では、「目的に応じた書き方」や「筆記具の選び方」を取り上げ、書写で学んだ内容を学校生活や日常の生活に生かせるようにしている。 ○平仮名のでき方、俳句、文語詩、行書などを学年に応じて取り上げ、伝統的な言語文化との関連を図るとともに、書写への関心を高めている。
2	<p>内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新出の文字にすべて筆順が示され、点画の特徴を強調して示している。 ○毛筆の技能が視覚的に捉えられるよう、朱墨で穂先の通り道を、始筆から終筆までを写真で、筆の流れについては矢印で示している。 ○毛筆教材の解説ページや「硬筆に生かそう」では、教科書への書き込みやなぞり書きができるよう工夫がされている。 ○えんぴつはかせ、ふではかせ等の吹き出しを使い、学習のポイントを説明し、児童の思考や判断を助けている。 ○低学年では「しよしゃのがくしゅうのしかた」、中学年以上では「毛筆学習の進め方」が示されたり、学年のまとめに点画の種類が示されていたりと、主体的に学習ができるように工夫されている。 ○「学習をふり返ろう」が設定され、低学年ではシール、中学年以上は印を書くことで、学習活動をふり返り自己評価できるようになっている。 ○6学年の発展ページでは、中学校で学習する「行書」の特徴を示している。
3	<p>資料について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○姿勢や筆記具の持ち方や扱い方を、巻頭の折込に写真や絵で示し、解説をつけて掲載している。低学年では、書く準備を歌にして、イラストとともに示している。 ○毛筆教材では、半紙原寸大の手本もあり、視覚的に捉えられるようにしている。また、書写への興味を高めるような資料を各学年に応じて掲載している。 ○低学年では、自己評価に使用するシールや、名前のシールも用意されている。
4	<p>表記・表現について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のポイントが分かりやすいように、キャラクターの吹き出しで示したり、その部分を取り出して拡大したりして示している。 ○毛筆では、毛筆の筆使いが分かりやすいように、実際に筆を動かしている連続写真を活用し、穂先に朱墨を付けて書いた手本を掲載している。 ○全学年の裏表紙に「保護者の方へ」があり、その学年で学習する内容、身につくことを保護者へ知らせている。
5	<p>全体的な特徴、その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の始まりに、「書写の学習の仕方」「毛筆の学習の進め方」が示され、見通しを持って、主体的に書写学習が進められるよう意図されている。 ○新出漢字が、書き順とともに掲載してあり、低学年では書き順が分かりやすいように色をつけるなど、漢字学習にもつながるようになっている。

教科用図書調査研究専門員会報告書

教科	国語科	種目	書写
----	-----	----	----

発行者略称	三省堂	教科書名	小学生の書写
-------	-----	------	--------

所見
<p>1 学習指導要領の教科の目標とのかかわりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中・高学年では、学習内容を硬筆で学び、毛筆で確かめてから、さらに他の文字を硬筆で書いて確かめる構成としている。 ○中学年では、始筆の穂先の位置が時計の文字盤を使って解説され、基本的な点画の書き方は、穂先の動きや筆圧が分かるよう、朱墨を使って示されている。 ○手紙やはがきの書き方、レポートや新聞作成、ノート整理等、他教科の学習や日常生活に生かせるよう提示されている。また、毛筆用具の紹介、文字の由来、俳句等伝統的な言語文化との関連を図っている。 <p>2 内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学年では、2色(朱・薄墨)で、穂先の向きや通り道がわかりやすいように示されている。 ○学習したことを硬筆で書き込めるマスや行、枠を設定し、練習することができ、書写の基礎的・基本的知識・技能の定着を図っている。 ○単元の導入では、「考えよう」で比較させ、考えながら書く活動を重視している。 ○「たしかめよう」「確かめ合おう」では、学習の振り返りとして、自己評価欄に印を記入するようにしている。 ○中・高学年では、毛筆学習と併せて硬筆で書き込めるようになっていて、硬筆と毛筆との関連を図った学習を展開できるようになっている。 ○中学校で学習する「行書」を6学年で取り上げ、「楷書」の良さと「行書」の良さとを紹介するなど、「発展」の教材も示している。 <p>3 資料について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○姿勢や筆記具の持ち方・扱い方が、巻頭の折り込みにイラストと言葉で掲載されており、低学年には、「姿勢の合い言葉」がイラストと共に示されている。 ○始めや巻末に、書写の興味・関心を高めるような資料や書字場面が各学年に応じて掲載されている。また、前学年と現学年で学習する漢字も示されている。 <p>4 表記・表現について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手本の前ページに、気を付けて書くポイントを示している。また、穂先の向きや通り道が分かるように、イラストや朱墨を使って書いた手本も示している。 ○穂先の向きを時計の方向で示し、点画の書き方を視覚的に分かりやすく説明している。 ○低学年の書き方のポイントは、拡大したり色分けされた図形を使ったりして示し、練習スペースを多く取っている。 <p>5 全体的な特徴、その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の単元の終わりには、「学習を生かそう」「ひろげよう」を設定している。「ひろげよう」では、日常の生活や他教科に関連させた教材を各学年に応じて提示している。 ○高学年で、目次に「学習の仕組み」として、「考えよう」「書いて確かめよう」「毛筆で確かめよう」「確かめ合おう」を掲載し、主体的学習を促している。○表紙に、男子と女子、犬が登場し、各学年の段階を踏んでだんだんと成長している様子が描かれている。

教科用図書調査研究専門員会報告書

教科	国語科	種目	書写
----	-----	----	----

発行者略称	教出	教科書名	小学 書写
-------	----	------	-------

所 見
<p>1 学習指導要領の教科の目標とのかかわりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4 学年以上では、課題を設定して解決する「学習の進め方」を7～8段階で示し、「めあて」が具体的に示され、児童の学ぶ意欲を高めている。また、全学年で、教材の最後に自己評価の観点を示し、評価欄を設けている。 ○全学年で「横書きの書き方」を扱い、「算数で生かす」「理科で生かす」などの項目を設定し、目的に合わせた書き方を学べるようにしている。 ○短歌や俳句、古典などの発展教材や資料を学年に応じて掲載し、豊かな言語感覚の育成や伝統的な言語文化との関連を図るなど、書写への関心を高めている。 <p>2 内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習した内容を系統的且つ繰り返し学べるよう、点画の種類や「前学年のまとめ」「学年のまとめ」を設けている。○学習のはじめに「ためし書き」、終わりに「まとめ書き」ができるようになっていて、書写技能の定着を図っている。 ○毛筆の技能が視覚的に捉えられるよう、2色(朱・薄墨)を用い穂先の通り道を示したり、筆使いのポイントを連続の拡大図で示しており、穂先の動きと点画のつながりが明確に示されている。 ○中・高学年では児童が自分の課題に気付けるよう、「考えよう」において問いかけ文を示して、教材文字とためし書きを比較させようとしている。 ○単元の目標が達成できるように、「ここが大切」では、朱書きや枠でポイントを示している。 ○中・高学年では巻頭に「学習の進め方」を示し、導入から振り返りまで見通しをもって学習できるようになっている。 ○中・高学年では、教材ごとに自己評価できるよう、「ふり返ろう」(3段階)を設けている。 ○「知りたい文字の世界」や「はってん」では、伝統的な言語文化を取り入れたり、書写で学習したことを他教科の学習や日常生活に生かしたりできるように示している。 <p>3 資料について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○姿勢や筆記具の持ち方や扱い方を、各学年巻頭と裏表紙に写真と言葉で掲載するなど、いつでも見られるよう工夫されている。 ○各学年の巻末折込には、前・現学年の2学年分の配当漢字表が掲載され、書き順や字形などをいつでも確認できるようにしている。 <p>4 表記・表現について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○点画のつながりや字配りについて、点線、数字や大切なポイントが書かれた文字を色分けしている。 ○筆圧等学習のポイントを、男子、女子、先生等のキャラクターが、吹き出しの形で解説しており、書写の学習を身近に感じさせるよう配慮されている。 <p>5 全体的な特徴、その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文字への興味・関心を高められるよう、「知りたい文字の世界」で文字に関する様々な情報を示している。 ○既習の学習内容を日常生活や他の教科・領域に生かせるように「トライあんどチャレンジ」の教材を示している。 ○各学年に「はってん」として、次学年以降で学習する内容にも触れており、他学年との関連性も示している。

教科用図書調査研究専門員会報告書

教科	国語科	種目	書写
----	-----	----	----

発行者略称	光村	教科書名	書写
-------	----	------	----

所見
<p>1 学習指導要領の教科の目標とのかかわりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○書写学習の基礎的・基本的な知識・技能が身に付くように、「ねらいの確認」「毛筆」「硬筆」「ふり返り」の学習過程の中で毛筆教材と同じ学習要素を持つ硬筆課題を設定している。 ○全学年「資料」のページで、日常生活や学習に役立つ内容を設けている。6年では「発展」を設け、中学校への接続を図るとともに書写への関心を高めている。 ○各学年に応じ、道具の製作過程、古文、俳句、文字の歴史等を示し、伝統的な言語文化や書写への関心を高めている。 <p>2 内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「良い例」と「悪い例」を示し、基礎的な技能の定着を図っている。 ○基本的な点画の書き方は、2色(朱・薄墨)を使って説明している。中学年では、「始筆・送筆・終筆の穂先」の向きが分かるように穂先マークを絵で示している。 ○「たいせつ」マークでは、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるために基本点画の書き方のポイントを示している。 ○児童が考えて学習できるように、整った文字と整っていない文字などを示し、比較しながら学習を進める導入を行っている。 ○「できたかな」「ふり返ろう」では、自己評価の観点が見られている。 ○中学年以上では「学習の進め方」が示され、見通しを持って、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○硬筆と毛筆との関連を図り「学習したことを生かして書こう」が用意され、書き込みができるようになっている。 ○硬筆学習で学んだことが、メモの取り方、パンフレットの書き方、原稿用紙の使い方等、国語の学習で生かせる内容を取り上げている。 ○他教科との関連を図った資料を示したり、興味・関心が持てるような話題として、「もっと知りたい」を示したりしている。 <p>3 資料について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○姿勢や筆記具の持ち方が、巻頭ページや折込に、写真、絵や言葉で示され、低学年では実物大で手の位置が示されている。 ○前学年・現学年の漢字を、巻末折込に掲載し、中学年以上では現学年については、硬筆・毛筆の両方で掲載している。 <p>4 表記・表現について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イラストや鉛筆・筆・葉(大切)などのマークを使い、学習する際のポイントや注意点を視覚的に示している。 ○「良い例」と「悪い例」を示し、考えさせることを通して学習のポイントを捉えられるようにしている。 ○低学年の硬筆では、点画の特徴が捉えやすいように毛筆の書体を効果的に使っている。 <p>5 全体的な特徴、その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入・理解・確認・活用の学習のプロセスを繰り返すことで、児童の主体的な活動や基礎基本の定着を図りやすい構成になっている。 ○全学年で、学習の始めに姿勢や筆記具の持ち方を示している。 ○巻末の「資料」では、身に付けた書写力を日常生活に活用できるようにしている。

教科用図書調査研究専門員会報告書

教科	国語科	種目	書写
----	-----	----	----

発行者略称	日文	教科書名	小学書写
-------	----	------	------

所 見

1 学習指導要領の教科の目標とのかかわりについて

- 目次ページに各学年の「学習のめあて」を提示し、各教材では「考える」「確かめる」「いかす」「ふりかえる」の学習過程を示している。
- 各教材で「学習の進め方」を4段階で示し、見通しを持って学習に取り組めるよう構成され、毛筆で学んだことを硬筆に生かせるようにしている。
- 中・高学年では、硬筆教材として古典、文学作品、行書などを扱い、伝統的な言語文化との関連を図るとともに、書写への関心を高めている。

2 内容について

- 第1単元には、前学年を振り返る教材「思い出して書こう」があり、単元間の連携、学年間の接続を図った構成になっており、スパイラルに学習を進めることができる。
- 中・高学年の「字形が整う3つのポイント」では、字形、筆順、組み立て方を繰り返し示している。
- 単元のはじめの「考える」では、考えさせる課題が示され、キャラクターの吹き出しにより、意欲的に取り組めるよう導いている。
- 中・高学年では、「ここがポイント」でめあてを達成するための手がかりを示している。
- 低学年では「かんがえる」「たしかめる」「かいてみる」「できたかな」、中・高学年では「考える」「たしかめる」「生かす」「できたかな」という学習の流れで統一され、主体的に学習に取り組めるようになっている。
- 硬筆と毛筆との関連を図り「書こう」が用意され、書き込みができるよう設定されている。「広がる学び」では、日記や手紙、横書きなどで、硬筆で学んだことが、国語の学習や日常生活に生かせるような具体例を示している。
- 「チャレンジ」では、学年のまとめとしての教材を用意し、中学校との関連学習「行書」も高学年で示している。

3 資料について

- 学習のはじめに、姿勢や用具の持ち方や扱い方のページを設け、高学年でも、最初のページに「筆・墨・硯・紙」「文字の成り立ち」等、書写に対する関心・意欲を高める資料を掲載している。
- 常に字形や筆順を確認できるよう、現学年で学習する漢字とひらがな、カタカナを巻末折込に掲載している。漢字については書き順を示している。

4 表記・表現について

- 手本の前ページに、朱墨の字、めあてを達成するためのポイント、漢字の筆順を細かく示し、児童が確認できるようにしている。
- キャラクター（パンジー・ショパン）の吹き出しには、学習のめあてを達成するためのヒントがあり、楽しみながら学習を進めることができる。

5 全体的な特徴、その他

- 「広がる学び」、「もっと書こう」では、手紙や新聞の書き方、メモの書き方など、学んだことを他教科・領域や日常生活に生かせるようにしている。
- 姿勢、点画の種類を巻頭に示し、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるようにしている。高学年からは、「学習の進め方」を示し、自ら学習に取り組めるようにしている。